

1 白血球とは？

白血球は血液中に存在する細胞である血球の一種です。血球には赤血球、白血球、血小板の3種があります。赤血球と血小板は単一種類の細胞ですが、白血球は数種類の細胞の総称で、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球の5種類があります（図参照）。好中球は核の形によって分葉核球と桿状核球に分けられます。

白血球の働きは種類によって異なります。好中球は体内に侵入した病原細菌と戦います。単球は好中球と似た働きをしますが、病原体の情報伝達も担当します。好酸球は寄生虫と戦うほかに、好塩基球と共にアレルギー反応に関与します。リンパ球は免疫機能を担っており、ウイルスに感染した細胞や癌細胞を攻撃します。アレルギー反応にも関与します。

検査のはなし vol.12

専門医が教える 職場や市町村による健康診断での 検査結果をみたとき 異常値の意味と改善法…15

「白血球数と分画」



日本臨床検査専門医会
佐藤 尚武

2 白血球数と分画の基準範囲は？

白血球数の基準範囲（健康人の95%が分布する検査値の範囲）は、 $3.3 \sim 8.6 \times 10^9/L$ （共用基準範囲）です。各種白血球の白血球全体に占める割合を白血球分画といいます。白血球分画の基準範囲は、桿状核好中球：0.5～6.5%、分葉核好中球：38.0～74.0%、リンパ球：16.5～49.5%、単球：2.0～10.0%、好酸球：0.0～8.5%、好塩基球：0.0～2.5%（日本検査血液学会）です。

4 白血球数や分画が異常だった場合、 どうすればよいでしょうか？

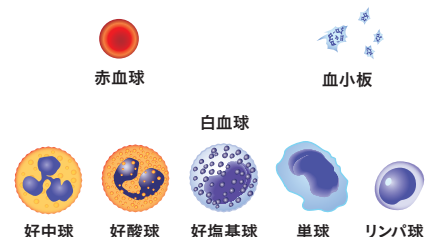
白血球数は個人差が大きく、健診で見つかる軽度の増加や減少は、その人にとって異常ではないことがあります。増加の場合は、どの白血球分画が増えているかを調べ、前記した原因となる疾患を探ります。増加が著しい場合は白血病の可能性があるため、血液疾患の診療を行う医療機関を受診する必要があります。中等度以上の減少の場合は感染症を発症しやすくなるので、やはり医療機関の受診が必要になります。

3 白血球数やその分画は どんなときに異常になりますか？

白血球数はさまざまな原因で増えたり減ったりします。その原因によって異常を示す白血球の種類は異なります。細菌感染症など炎症を起こす病気では好中球が増えます。病原体によっては単球が増えることもあります。寄生虫症やアレルギー疾患では好酸球が、ウイルス感染症ではリンパ球が増えます。白血球が増加する悪性の病気として白血病があります。好塩基球が増える病気は少ないのですが、白血病の一種である慢性骨髄性白血病でしばしば増えるので、注意が必要です。

白血球が減る原因としては、薬剤の影響（薬理作用やアレルギー）、放射線障害、再生不良性貧血や骨髄異形成症候群といった血液の病気があります。白血病でも減ることがあります。

図 血球



●日本臨床検査専門医会：種々の検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供する臨床検査医の職能団体です。